

Aさんの異性との関わりについて考える

生活介護 支援員

<はじめに>

Aさんとの関わりは私がげんきの家で働き始めた8年前からになる。活動を一緒に行った際に、笑顔や興味があるものに対して右手に持ったマラカスを振る等アピールを出してくれていた。また、日常生活の中でAさんを抱えた際に、首を寄せて目が合う事が度々あった。その時は、「私に対して興味があるのかな?」、「抱え方が気持ちいいのかな?」と考えていた。

げんきの家を3年間離れていてまた改めてAさんに関わると色々な感情を出していた事に気づく。空白の期間があったが、再度関わると抱えた際に見せる嬉しそうな表情があった。もしかしたら、この活動が好き・嫌いの中に異性として何か感じるものがあるのかも知れないと思った。今回、いくつか事例をあげながら異性との関わりについて考えていきたい。

<Aさんについて>

性別：30代女性 障害名：脳性麻痺 障害区分：6

- ・胃ろう造設 ・日中入眠している時がある
- ・3年前と比べて側弯等、身体の変化が進行している

<活動の事例>

「個別活動時において」

B職員（女性）との個別活動時に、美容をした後にC職員（男性）に抱っこをしてもらい写真を撮る。口紅を選ぶ際には、ラメ入りかラメ無しかを目の前に見せて選んでもらう。ラメ入りを見て、右手に持っているマラカスを振っていた。C職員との抱っこでは、首を職員に寄せたり、上目遣いで嬉しそうな表情もあった。時折舌を出し、カメラを見たりA職員の方を見たりとしている。

※抱っこの仕方は、頭を右にし、C職員の膝の上にお尻を乗せ膝を下ろす形を取っている。

「ハロウィンの衣装選びにおいて」

マット上で休んでいる時にD職員（女性NS）に声をかけてもらう。D職員と目線等合わず、表情の変化もあまりない。C職員がAさんを抱っこする形で座り話しを進めていく。目の前で衣装を順番に見せていくと、あまり気に入らない衣装だと、C職員の反対側の方にぶいっと向き、気に入った衣装だと、C職員の方へ顔を向け頭をよりかけるようにしてみたり、身をゆだねている様子だった。何度か衣装を変えてみたが、選択しているという表情ではなさそうと感じた。そこで、D職員が「C職員に選んで欲しいかー?選んで貰おうか?」と声をかけると、自分の手に握っていたマラカスを自ら勢いよく振り、アピールをしていた。Aさんが最初気に入った衣装をC職員が選ぶと表情も笑顔で満足そうな様子だった。

「歯磨き時において」

- C 職員の歯磨き時では、手を挙げ頭上にいる C 職員の方をチラチラ見ている。右奥の歯茎を磨こうとすると眉間にシワが寄っている。歯ブラシを噛むが、C 職員の方をよく見ている。離して欲しい旨の声かけをしてしばらくすると離してくれていた。
- E 職員（男性）の歯磨き時では、手を挙げるも眉間にシワ等の嫌な表情は特にならない。時折、頭の上にいる E 職員の方をチラチラ見ている。段々と口を開けているのが辛くなってきたのかそれとも歯磨きが嫌になってきたのか歯ブラシを噛んでいる。E 職員が声かけをすればしばらくして離していた。右奥の歯茎を磨く際はあまり嫌そうな表情はなかった。
- F 職員（女性 NS）の歯磨き時では、最初嫌そうな表情はなかったが、右奥の歯茎から出血しやすい部分を磨くと手をぶんぶん振り嫌がっている。発声はなかった。

<考察>

「個別活動において」

Aさんが抱えられて座位を取る際、抱えている支援員の方を向く事がある。上目遣いになり口角が上がり穏やかな表情をする事が多い。3年間という空白の期間があったが、嬉しそうな表情は変わらずにあった様に感じた。美容をした後に抱えられたのが嬉しかったのかもしれない。

「ハロウィン衣装選び」

選択する場面では、最初気が乗らない様子だった。しかし、抱えられる事によりスイッチが入ったのではないかと思う。徐々に身体的な衰えがみられ、側湾や体の変化が進行していく中で体を伸ばしリラックスする時はAさんにとって心地よい時間なのかもしれない。その中で抱えられる事は、選択する場面ややる気が入る一つのきっかけになっている様に感じる。また、衣装を見る目線と支援員を見る目線では、感情のこもり方が違うのではと感じた。一緒に決めていきたいという想いがあったのかもしれない。

「歯磨き時において」

眉間にシワを寄せることがありAさんは歯磨きがあまり好きではない印象がある。もしかしたら、嫌な事をしていても異性によって違うのかもと思い観察を行った。C職員、E職員の方をチラチラ見ている様子から、歯磨きをする人の事を意識していると思う。C職員、E職員は力加減を弱くし優しく磨いている事から、歯の汚れ具合や、磨く場所、力加減で変わっている様子ではと感じた。

<終わりに>

今回Aさんと異性職員との距離や関わりについて見てきたが、視覚や声、匂い、抱っこという人との触れ合いを通してメリハリや生活の変化を感じているのではないのだろうかと思う。Aさんがげんきの家に通うようになり、26年が経とうとしている。生活の中でももしかしたらマンネリがあるのかも知れない。その中で嫌な時、気分が乗らない時にモチベーシ

ョンがあがるキッカケになればいいと思う。また、今回職員との関係性に焦点を当てて見てきたが、Aさんと他のなかまとの気持ちについてはどうだろうか？、リラックスした環境を設定し他のなかまに繋がる声かけや支援をしていくとどうだろうか？という考える機会ともなった。人との触れ合いを通して生活を楽しめるようにこれからも考えていきたい。